



トルコ地震からの復興とともに取り組む 建築学部を在トルコ日本国総領事が訪問します

トルコ地震の復興支援に取り組む武庫川女子大学建築学部は12月16日、笠原謙一・在イスタンブール日本国総領事が来訪します。建築学部では文化庁の受託により、トルコ・バフチェシヒル大学とともに、壊滅的被害を受けたトルコのアンタキヤ旧市街の復興デザインを提案する拠点交流プロジェクトを実施しています。今年11月にバフチェシヒル大学で行ったシンポジウムでは、笠原総領事も登壇した縁でこのたびの来訪が実現しました。

本学も多大な被害を受けた阪神・淡路大震災から間もなく30年の節目を迎えます。今回のトルコ総領事の来訪では、地震への備えと復興について、建築が果たすべき役割を再確認するとともに、拠点交流プロジェクトで制作したアンタキヤの模型などを見ながら教員・学生と交流する予定です。

本学はトルコ・バフチェシヒル大学と一般交流協定を締結しており、特に建築学部で学生の交換留学など活発な交流があります。2023年2月のトルコ地震では、発生直後から教員3人が被災地に入り、調査や復興に向けた提言を継続的に行っていました。

こうした経緯から、令和5年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）「トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する国際貢献事業」を文化庁から受託し、発災から1年後の今年3月に「復興に向けた9つの提案」を発表。さらには文化庁から令和6年度文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する拠点交流事業」を受託し、バフチェシヒル大学とともにアンタキヤ旧市街の復興都市デザインを提案する拠点交流プロジェクトに取り組んできました。

これまでにアンタキヤで両大学の教員らが現地調査ワークショップを行ったほか、武庫川女子大学にバフチェシヒル大学の教員らが訪れて、学生たちとともにアンタキヤ旧市街の模型を作成し、復興デザインを考えるなど、プロジェクトを推進してきました。今年11月には、プロジェクトの関係者がトルコ・バフチェシヒル大学にそろい、シンポジウムを開催してこれまでの成果を報告しました。

笠原総領事の来訪は12月16日（月）午前10時、上甲子園キャンパス甲子園会館の予定です。

この件に関する取材のお申込み、お問い合わせは武庫川女子大学広報室

Tel 0798-45-3533

E-mail kohos@mukogawa-u.ac.jp

へお願いします

アンタキヤの住宅の模型



11月にトルコで行われたシンポジウム

